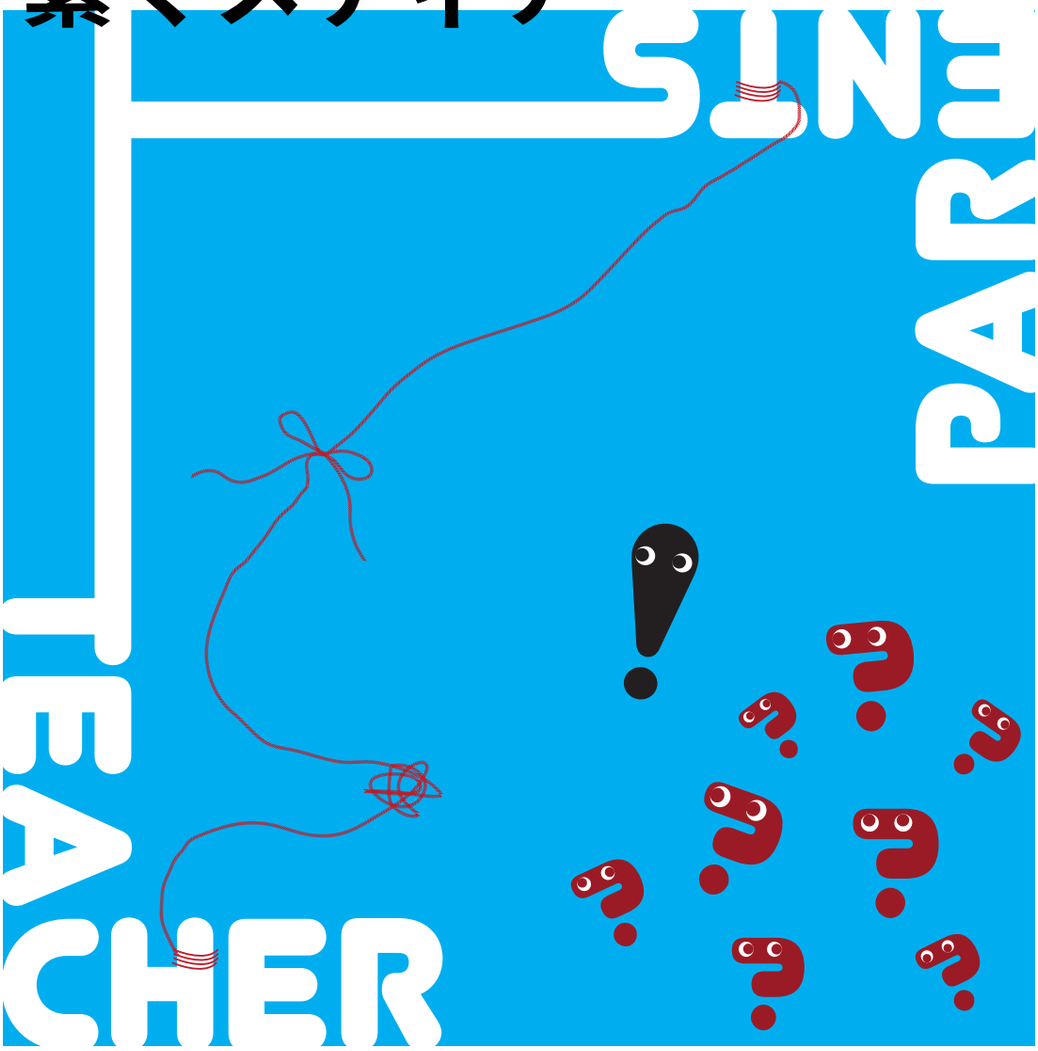
— 祝・創刊! —

SWIMMY

おや と せんせい を 繋ぐメディア



教師は変われるか!?

「みちあそび」ってなんだ？

「ご機嫌な学校」in 愛媛

参加したくなるPTAとは

■覆面座談会

ちょっとしたことでは連絡しない・したくない保護者

VS ちょっとしたことでも連絡してほしい先生

■お悩み相談室

「ちょっと聞いてみたい!」を聞いてみた!

1

創刊号

2022/12

教師は変われるか!?

「教え、育てる」を手放して「学び、育つ」を信じる。

私は中高一貫校の英語教師です。長い間、大学受験の受験指導をやってきました。受験における強い師弟関係にはスポ根ドラマがあります。先生はうまくいく方法を知っていて、生徒は今の自分の感覚と違っても師のいうことにどれだけ忠実に従うことができるかが求められ、努力・根性でがんばり、合格を勝ち取る。そんな世界観です。師は最初は憎まれもしますが最終的には感謝されることも多く、一見みんなハッピーです。この世界観では教師は自分が「育てた」という感覚をもちやすいのですが、実はここに落とし穴があります。

それは、本当に先生のやり方にのれるか？という点です。「教え、育てる」の意識が強すぎると、従えないものは排除するという方向に行きがちです。

では、「学び、育つ」って何なのか？英語が苦手な中学1年生の生徒が、ある時期にいきなり英語のテストの点数が30点も上がりました。この生徒はゲーム好きなのですが、ゲームやそれを解説する動画で英語がたくさんでてきたらしいのです。それで英語に興味がわき、本屋で自分で問題集を買ってきて、わからないところまで戻って最初からやり直したそうです。当たり前なのですが、私がうまく教えたからわかったのではなく、自分の頭で考えて学んだからわかるようになったのです。

では、教師の役割って何なのか？成績が伸び悩んでいる生徒は困っています。話を聞いてほしいと思っている。たとえ表面上はそう見えなくても。だからまず面談の中でその生徒の存在を受け止めてあげる。その上でどうなりたいかを一緒に考える。学ぶのは子ども、育つのも子ども。教師は伴走するという意識でいればいい。

でも、これを読んでいる読者の方には知っていてほしいことがあります。それは、教師にとっては、「教え、育てる」というのを手放すのは怖いことであるということです。教師としては、自分の言うことに素直に従ってくれて感謝までしてくれる存在を手放すのは不安でたまらないのです。この気持ちを理解してくれる人がいてくれると思えたら、きっと、私たち教師も変わる勇気がでてくるのだと思うのです。

■Written by 藤澤佑介
現役の英語教員。学校が「セカイは変えられる、ミライは創れる」という感覚を育める場にしたいと情報発信中。

「みちあそび」ってなんだ？

～子どもが自由に遊べる社会を作るために～

「みちあそび」と聞いてみなさんはどんなことを思い浮かべますか？豊かな遊び環境づくりとして大きな可能性を秘めている活動「みちあそび」を紹介します。

子どもが外遊びをしなくなったと言われるようになってからずいぶんと経ちました。その一つの要因は、遊びの一要素である「空間」が子どものそばから減ったからだと言われています。たしかに、子どもだけで安全に自由に遊んでいられる空間は、現代の日本では非常に限られています。

では、子どもにとって身近な遊びの空間は本来どこなのでしょうか。実はその一つが「道スペース」(1)だと言われています。考えてみてください。私たちが子どものころ、家の前の道路にチョークで絵を描いたり、縄跳びで遊んだりしていませんでしたか？子どもにとって「みち」とは本来、とても身近な遊び環境なのです。

しかし、現代の日本で子どもが「みち」で遊ぶことはそう簡単ではありません。交通量も増え、ご近所とのつながりも希薄になり、不審者だって怖い…親にとっても地域にとっても現実的でないように思えるかもしれませんね。でも…道端で遊べない、公園も友達の家も遠い、遊ぶスペースがない子どもたちはどこで遊んだらいいのでしょうか？

今から13年前、同じように「なぜ子どもたちは自由に遊べないのだろう？」と考え、行動を起こした母親たちがいました。英国ロンドンです。彼女たちは道路を止め、一時的に地域の子どもが遊べるスペースを玄関先に作ったのです。その活動はPlaying Outと呼ばれ広まりました。ある地域では子どもたちが自由に外に出て遊べるようになっただけでなく、大人たちにつながりが生まれるなど、地域全体に変化が起きたと言います(2)。

そしてPlaying Outは日本でも「みちあそび」として少しずつ広がっています。道路の使用許可をとって一時的な遊び場にしたり、お祭りの一角に遊び場を作ったりするなど、子どもの遊び環境を作ろうと考える人が増えているのです(3)。

大人が行動を起こすことで、子どもの環境を変え、社会を変えていく事例の一つとして学ぶことの多い「みちあそび」。みなさんも子どもが自由に遊べる社会とは何か、一緒に考えてみませんか？

■参考文献
(1) 仙田満(1992),「子どもとあそび」, 岩波新書
(2) Playing Out HP https://playingout.net/
(3) とうきょうご近所みちあそび https://playbourhood.tokyoplay.jp/about

■Written by 池田文子
こども遊び環境アドバイザー、元小学校教員。G-Ups、Play Shizuokaを立ち上げ、子どもの豊かな遊び環境を作るために活動中。

親と子が共に学び育つ

「ご機嫌な学校」in愛媛

多くの子どもが、公立や私立、国立学校に通っている。学校にはいくつかの種類があり、この他に「フリースクール」「デモクラティック(サドベリー)スクール」をご存じだろうか。外国の新しい教育運動の流れを受け継いだ学校であり、「不登校」の子どもや、その学校独自の教育で学びたい子どもが通う学校である。そこに通う子どもには学習権が保障されており、安心してのびのびと過ごすことができる環境や場所が整っている。

今年、愛媛県の南予地方で「愛媛にご機嫌な学校を作ろうプロジェクト」がスタートした。前述のデモクラティックスクールや他県の特色ある学校の長所を融合させた「最も新しい学校」を創るというプロジェクトだ。今年三月にメンバーで第一回目の打合せを行った。

私たちが掲げるこのプロジェクトの目的・意義は、①子どもの自殺者を無くし、彼らの孤独を減らす②子どもが自分で課題を見つけ、それを解決するために実行していくことで、主体性を身に付ける③地域の社会的問題を解消する(愛媛県南予の人口減少を解消する)、である。

大きな目的は子どもの「居場所づくり」である。ほとんどの学校は、校則やルールが予め決まっている。一方で、校則や学校でのルール、どんなことをやりたいのかなどを、全て子ども主体で決めるようにしたいのが、私たちが考えている学校である。子どもが自分で考え、行動するそばで、大人はその姿を見守る。これにより、子どもは根強く育ち、その子の「個性」が輝く、世界で一つだけの花を咲かせることができるはずである。

また、現在、空き家や使われていない旅館、ホテルなどをリサーチしている。これらの施設は、教育活動の拠点場所や学校の寮、宿泊先として利用する。また、地域の人口減少の問題の解消に繋げる役目もある。

そして、この学校では、大人の学びの機会も提供したい。コミュニケーションの充実やビジネスの発展の可能性も視野に入れている。例えば、ICT活用法やマーケティング、様々なビジネスの講座を開催し、親(大人)が地方でもできることを発展させることができるようにする。これにより、親(大人)も子どもと共に学ぶ環境を作ることができると考えている。

私は、子どもが学ぶ環境や機会の幅が広がり、子どもに自分の「好き」や「個性」を活かした人生を送ってほしいと願っている。これから、新しい学校の完成までの道のりを追っていく。

■Written by 吉田達也
学習支援教室E-stepで英語レッスンや学習サポート提供。元英語教員。愛媛に新しい学校設立企画中。

参加したくなるPTAとは

皆さんはPTAと聞いてどんなイメージをお持ちでしょうか。面倒くさい、できれば避けたい、という感じでしょうか。私も、長男が小4になるまではPTAから逃げ回っていました。でも、やってみるといいことだらけ！子どもの様子が知れるし、いろんな情報が入るし、地域のことも詳しくなる。

特に学校との関係性がガラッと変わりました。それまでは子どもを預ける親&子どもを預かる先生、という、ちょっと離れた関係だったのが、先生方と一緒に、子どもたちのために何ができるかを考えるようになりました。知り合いもたくさんできて、世界が一気に広がりました。私の周りでも、役員をやってよかった、楽しかったと言う人が多かったです。

とはいえ、やはりPTAというと、親には負担が大きくネガティブなイメージがあります。そんなイメージを払拭するために、私のPTAでは、まずは役員たちが楽しみ、その姿を見せるべく、親同士が交流する場を作って顔を出したり、独自のお便りを発行したりしました。

また、「できる人ができる時にできることを」というスローガンを掲げ、今まで役員がやっていた作業を一般保護者にお願いする「サポーター制度」を導入しました。花壇の花植えやバザーの準備など、多くの手を必要とする作業でボランティアを募ると予想以上の参加があり、毎回あっという間に作業が終わっていました。話を聴くと「役員をやっていないので、これくらいやらせてください」と、前向きな反応が多く、その後、残ってお茶しながら談笑するのも楽しみの一つのようでした。

その後、地元の小学校では児童減少の影響で、委員会をなくし、親の手が必要な活動はボランティアを募ってやっているそうです。思い切った改革に驚きましたが、それも一つのやり方かもしれません。
私にとってPTAは、自由で楽しい社会活動の場でした。親が学校に関心を持つこと、親同士がつながって子どもたちのために楽しく活動することで、子どもたちも生き生きと育つと信じてやってました。義務ではなく主体性を大切に、負担なく楽しく関われる場が作れると、参加しようかなと思う親も増えるのではと思います。

■Written by 中村麻理
英語講師・コーチ。子育てを機に教育に関わり、10年に及ぶPTA役員では会長も務めた。大人も学び成長する場づくりに取り組む。

ちょっとしたことでは連絡しない・したくない保護者

お互いの事情を理解した方がいいことはわかっていても、なかなか分かり合えない先生と保護者…その間を少しでも埋めるべく、それぞれの思いを本音で語り合える座談会を実施しました。両者の意見に耳を傾けてみると、今まで気づかなかったそれぞれの思いに気づくかもしれません。

そうさん　中学校教員（男性）
みぃさん　小学生・中学生の3児の母
前田さん　小学校教員（女性）
ゆうこP　小学生・中学生の2児の母

司会：今日のテーマは「ちょっとしたことでは連絡しないしたくない保護者 / ちょっとしたことでも連絡してほしい先生」というテーマで座談会の方を始めます。前田さんどうですか？

そもそも先生と保護者がすれちがっている

前田：教員という立場からなんですけど、担任を持っていると一日必ず何件かは自分のクラスの子どもに連絡することはあります。だから今日のテーマを見た時、「あーそうなんだ」っていう風に思いました。電話をするっていうことは教員にとってもドキドキしますし、保護者にとってはもしかしたらもっとドキドキすることなのかなっていう風に思いました。

ゆうこP：わたしは保護者ですけど、「先生たちってちょっとしたことでも連絡してほしいの？」って疑問がまずあって…。働き方改革ってすごく大きく叫ばれているので、ちょっとしたことでも連絡欲しくないんじゃないかなって思っていたので、テーマにびっくりしました。

そう：自分は中学校勤務なので、正直そこでかかってくる電話って、もう保護者の中ではかなり怒りマックスな状態からスタートすることが多いんですね。そういう意味では普段からこまめに連絡取り合ってる方がその相手の保護者のテンションとかもこっちがつかみやすいところがあるので、そこで関係作っといた方が何かあった時の対処しやすいです。だから連絡が来ること自体に自分は苦だなと思ったことはないです。↗

↘ 前田：**私もどんなことでも連絡は欲しいです。**働き方改革っていうのはもちろんあるんですけど、何か問題が大きくなったときに対処する方が大変だから、ちょっとした電話も全然大歓迎ぐらいに私はいつも思ってます。

ゆうこP：そうであったら、**「なんでも電話ください」ってもう少し言ってくれたら電話しやすいかもしれないですよね。**「ちょっとしたこと」っていう内容が分からないです。（先生方の）思いは伝わってないですね。私にはですけど。

みぃ：私にとっては電話は少しハードルが高くて、ゆうこPが言ったみたいに（小学校でよく使われる）連絡帳に書くことはあります。今ですと**コロナで一度も会ったこともない先生もたくさんいらっしゃるので、そうなるといきなり電話するのはハードルが高いです。**持ち物の話などの疑問だったら、私はお友だちのお母さんに最初に聞いちゃうかもしれないです。

ゆうこP：私は何でも言う方なんですけど、私でさえ遠慮するというか。**あんまり言いすぎると、モンスターペアレントと思われるかもと気にします。**

電話を頻繁にかける親はモンスター？

司会：先生たちは内容によって「そんなことで電話してくんなよ」って思うときはありますか？

そう：お子さんとちゃんとコミュニケーション取れていれば解決できる問題で電話をかけてくる保護者がたまにいますよね。その時には多分親子関係が悪いんだろうなと思うことはあります。
あと、職員室での様子をいうと、たくさん掛けてくる保護者は大体全員わかっているので、「〇〇さんの保護者から電話が掛かってきましたよ」と同僚間でいう雰囲気はあるかなと思うんですけど、でも笑いながらというか、マイナスなイメージはないですね。

前田：ゆうこPさんが先ほどおっしゃったように、「またこの人がかかってきた」ってよくあることで、珍しいことでもなく気にしなくていいことです。**電話を掛けるのは子どもの為ですよね。子どもが困らないように電話を掛けてくださってると思うんですよ。**↗

↘ 電話を掛けなければ、子どもは困るじゃないですか。だから、本当にちょっとしたことでも掛けてくださいって私は思っているのです。子どもの為ですから。

ゆうこP：前田先生の言葉、そのままプリントで欲しいですね。

学校ができること、保護者ができること

ゆうこP：先生がその学級を運営するにあたって「これだけできてたらオッケー」っていうレベルは多分あると思うんですよね。だからいつもそれを考えてしまいます。個性を大事にしなきゃいけないと思うんですけど、先生方としてはこういう状態だったら、ベストみたいなのはどんなどういう形なんですか？
学級は、その担任の先生一人ひとりのものなのか、学校のものなのか、そういうものって共有されているのか、その辺りを知りたいと思っていました。

前田：教員側では学校教育目標っていうのがあって、この学校ではここに力を入れますという学校独自のものです。
ただ、それを教員がどのように捉えているかっていうのは少し差があります。あとはクラスに集まった子どもの実態によっても少し変わってくるかなっていう風には思います。でもそんなに大きく外れて全然違うっていうことではないと捉えています。↗

↘ ゆうこP：ありがとうございます。これを質問した理由は、「ちょっとしたことでも聞いてほしい」っていうそのちょっとしたことが、先生が良いと思ってるレベルの中で、それよりも外れてるから言ってほしい、そのちょっとしたことってどういうことを言ったらいいのか分からないっていうか…

そう：担任が学級経営に対してどれくらいのイメージがあるかっていうのは、先生それぞれに差は実際あるかなとは思います。たぶん**自分はこういうところにこだわってますよ～とかいうのは、一個目の学級通信とかに書いて、自分がこういう方針ですっていうのをある程度示していきます。**その中で、保護者たちがもし疑問に思うところや気になることがあるなら、言ってほしいなって思います。少しでも疑問に感じたら、言うのを我慢して言わないぐらいだったら言ってくださいって感じですかね。

みぃ：私が思うことは、家庭訪問の代わりに希望者が学校に行って先生と懇談をするっていう形が四月の初めにあったんですけれども、実際この希望された方の時間の表を見てみればクラスの半分ぐらいなんですよ。私はただ先生の顔を見たいと思って、だいたい申し込むんですけれども、でも半分の方は、来られないんだっていうのがすごく不思議だったんです。
実際いってみてお話しすると、先生のお顔がわかって、先生にどうでもいい質問をしながら仲良くなっておいたら、いざ何かあった時に連絡しやすいな、っていうのがあって…そういうのを（親の方も）しておく必要があるんじゃないのかなと思いました。

■編集部：その他の話題になった内容は、Swimmy ウェブ版で読むことができます。続きや参加者の感想などを公開しておりますのでこちらよりお楽しみください！

ちょっとしたことでも連絡してほしい先生

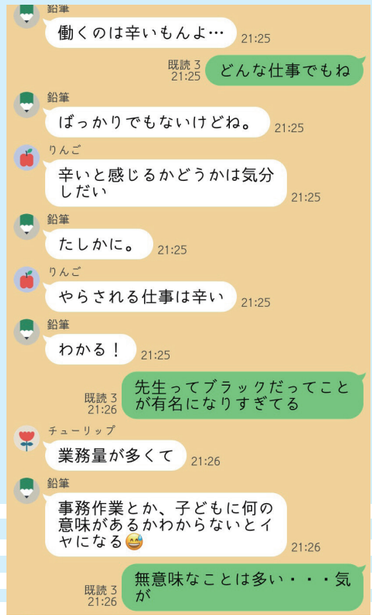
「ちょっと聞いてみたい！」を聞いてみた！

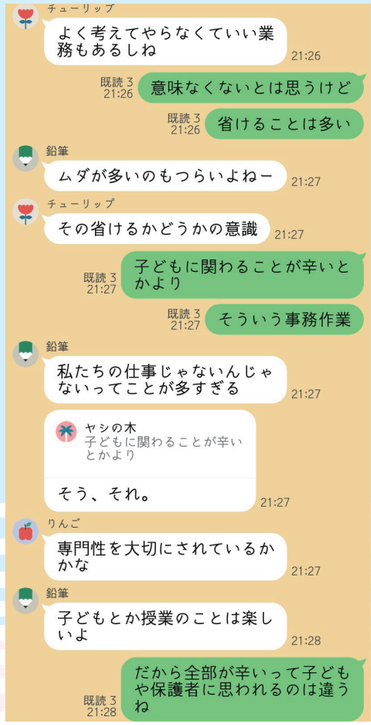
【保護者→先生に聞いてみたい!】

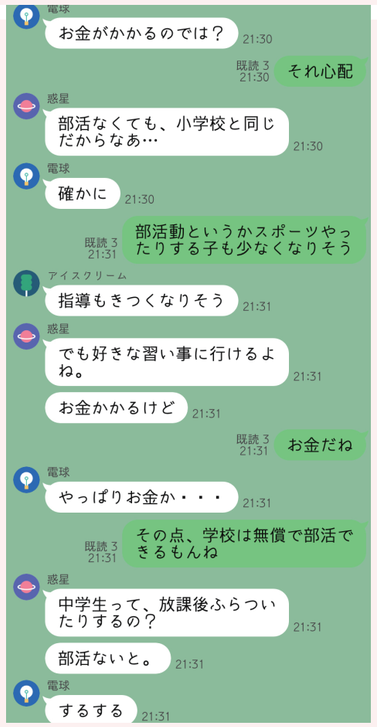
Q. 本当に先生たちは辛いばっかなの？

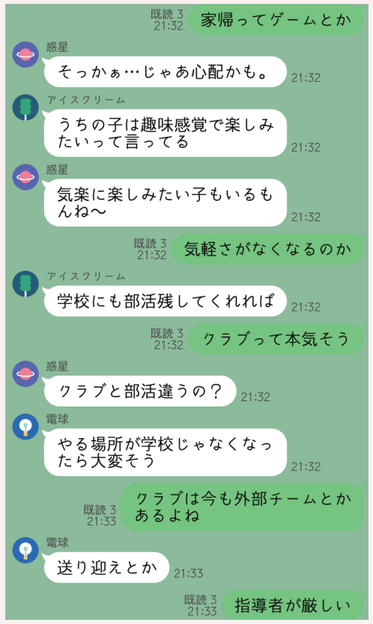
発言者：中学校の先生
鉛筆：小学校の先生
りんご：高校の先生
チューリップ：中学校の先生

「先生としての本来の仕事」に集中させてほしいということですよね。
（Swimmy編集部）









【先生→保護者に聞いてみたい!】

Q. 部活動の外部委託についてどう思いますか？

発言者：小学生の母
電球：3児の父
惑星：2児の母
アイスクリーム：中学生の父

親としては、安心して指導が受けられるかが心配ですよね…
（Swimmy編集部）

編集後記

教員を退職して3年目に、まさか自分が仲間と共に、教育の団体を立ち上げ、ペーパーマガジンを作っているとは夢にも思いませんでした。教員時代、大変なことはたくさんありましたが、同僚だけでなく、子ども、保護者にも支えられてきました。意見の食い違いがうまれ、関係性がうまくいかないこともありました。しかし、どの立場の大人も子どものことを考え、子どもや自分、家族の幸せのために熱い思いがありました。子どもに関わる大人は「子どものため」を願います。その同じ願いをもつ大人みんなが関わりあえたらどんな化学反応が起こるだろうなと考えました。

私たちにとって初めてのペーパーマガジン作成です。資金集めを含め、企画運営など探り探りで進めてきました。その過程で同じ思いをもつ多くの仲間と出会うことができました。確実に一人では成し遂げられませんでした。ペーパーマガジンを創刊するという目的の裏には、そういった思いをもつ大人と繋がり、大人が教育を楽しみながら、自分の人生も楽しんでほしいという願いもあります。Swimmy を通して、今後さらに大人たちが繋がり、子どもの教育のために一緒に何かができることを目指しています。

今回のペーパーマガジンSwimmyを通して出会えたすべての方に感謝の気持ちをこめて、第一号を発行させていただきます。この場を借りまして、継続発行のためのクラウドファンディングでご支援をいただいた皆さまに御礼申し上げます。本当にありがとうございました。第二号も楽しみにお待ちください。

G-Ups代表理事

新川紗世

■Growing-Ups for Childrenでは、わたしたちと一緒に活動してくれる仲間を募集しています。

G-Ups会員になるメリット

1. G-Upsを通してあなたの思いや考えなどを発信
   G-Upsでは、ご自身の思いや考え、ノウハウについて発信したいと思う方をイベント内で講師として活躍してほしいと思っております。提案・企画・実施まで協力してやっていきましょう。イベント内で講師をやってみたい方はぜひご参加ください。またSwimmyの執筆者としても活躍することができます。

2. 各種イベントや講座を会員特別価格でご参加可能
   年間を通じて、オンラインイベントの開催を予定しています。先生向けや保護者向けなど、イベントへの参加が会員特別価格でご参加いただけます。

3. 教育について語り合う場への参加
   Swimmy記事を元にした交流会や、会員同士が教育について熱く語り合える場を提供しています。
   思いを共有し、実現に向けて行動していく仲間と出会うことができます。

詳しくはWebサイトをご覧ください！

■私たちの活動に賛同していただけましたら、ぜひSwimmyへのご支援をお願いいたします。

ご支援いただきました方へのお礼

~¥50,000　SwimmyWebにお名前を掲載いたします。
¥50,000~　ペーパーマガジン版SwimmyとSwimmyWebへお名前を掲載いたします。

ご寄付のお振込先

お振込み口座

清水銀行 野中支店（158）
普通　2170948
グローイングアップスフォーチルドレン

※お振込み手数料はお客様ご負担でお願いいたします。
※ご寄付をしていただけましたら、お名前と連絡先をswimmy.web@gmail.comまでお伝えください。
　こちらから改めてお礼のメールをお送りいたします。

ご寄付いただいたみなさま

（敬称略・順不同）
ふじみ歯ならびクリニック 高橋一人
プロコーチ / 教育ファシリテーター 吉田メイ
特定非営利活動法人たんぽぽの丘 代表理事 野邑浩子
岡野高之

Swimmy 制作委員会

（敬称略・順不同）
編集長・プロデューサー／新川 紗世、チーフディレクター／池田 文子
クリエイティブディレクター／藤澤 佑介、チーフマネージャー／吉田 達也、校正／宇佐美 良
WEBサイト制作／WEBデベロッパー 2GEONET つげお
ロゴ・紙面デザイン／グラフィックデザイナー 福浦 由佳子

Growing-Ups for Childrenは、「大人が幸せになることによって子どもたちのよりよい教育につなげたい」「教育関係者が安心して語り合い、自己成長できる場をつくりたい」という願いの元、2021年12月、元小学校教員と元中学校教員の２人で立ち上げた団体です。
教員や保護者など子どものそばにいる大人に対し、教育について学ぶ場や自己のあり方を考える場を提供することを通して、子どもを取り巻く教育的環境を改善し、全ての子どもたちが安心して学び、育つ社会の発展に寄与することを活動ミッションとしています。
子どもたちにとって最も身近な教育資源は私たち大人です。そこには保護者や教員などの垣根はありません。私たち大人が教育を自分ごととして捉え、学び、成長していくことで、よりよい教育環境を実現していくことが私たちG-Upsの目的です。

2021年12月	Growing-Ups for Children設立
2022年3月	Swimmy project始動
2022年4月	ふじのくに未来財団　助成金事業　採択
2022年8月	Swimmy継続発行のためのクラウドファンディング　112%達成
2022年11月	Swimmy Web 公開
2022年12月	Paperマガジン版”Swimmy” 第一号発行
2023年 夏	第二号発行予定

次号予告

2023年夏、発行予定！

「その言葉、届いていますか？」

お楽しみに！

SEE YOU NEXT TIME!

公益財団法人
ふじのくに未来財団
Fujinokuni Future Foundation

このマガジンはふじのくに未来財団「テーマ指定 子育て支援事業」の助成を受けて作成しました。